

記録
35ミリ
カラー／34分
日・英語版

- 企画
(財)ポーラ伝統文化
振興財団
- 監修
文化庁主任文化財調
査官 高橋秀雄
- 撮影協力
埼玉県秩父市／秩父
市教育委員会／秩父
観光協会／小鹿野町
／吉田町／皆野町／
秩父盆地の人々 他

スタッフ

- 製作
村山和雄
- 脚本・演出
村山正実
- 撮影
村山和雄
山屋恵司
- 応援撮影
西山東男
山崎堯也
- 音楽
長沢勝俊
- 照明
本橋俊男
- 編集
沼崎梅子
- 写真提供
清水武甲
- 語り
長岡輝子

文部省選定 日本映画ペンクラブ推薦 1990年教育映画祭優秀作品
賞 第34回日本紹介映画・ビデオコンクール金賞・外務大臣賞

秩父盆地には、近代化の波と風化を免れた様々な行事や祭りが今日まで残されてきた。これらの祭りは、古くは深い信仰に根ざしたもののから、江戸の文化を色濃く残したものまで、どれも盆地で暮らす人々の日々の平安と幸福への願いが表れている。なかでも、国の重要民俗文化財に指定されている夜祭りは、1年の行事の総てを結集した秩父最大の祭りである。この映画では、秩父盆地に残されている様々な祭りや行事を訪ね、最後に夜祭りを通して、人々の生活に根づいた祭りの意味を考え、そこに生きる民俗の心を探っていく。



秩父の村々は、盆地の深い鉢のような斜面に点々とあるが、今でも養蚕に関係の深い小さな祭りや行事がたくさん残っている。人々が五穀の豊穰を願い、日々の平安と幸福を祈った小正月の粥占いや繭玉の行事、山の子供たちによる花祭り、夏の虫送りや、秋の獅子舞い等が、今も行なわれている。

江戸時代には、大勢の巡礼たちがこの盆地に文化を持ち込んだが、江戸と秩父の関係をより深くしたのは絹織物であった。秩父市の背後に聳える武甲山と深い関係にある秩父神社では、古くから冬には養蚕の収穫を祝う夜祭りが行なわれていた。

12月2日と3日に行なわれる「秩父夜祭り」は、秩父盆地最大の祭りである。特に、3日の夜の秩父神社からお旅所までの巡行は圧巻である。引き綱の揉み合いの中で揃いの印半纏を着て屋台の綱を引く曳き子たち、勇壮にはやす4人の囃子や、屋台ばやしを交替でつとめる囃方、拍子木を打って屋台の操作や巡行を合図する町内の行司たちなど、太鼓の力強いリズムと共に、夜祭りの興奮を一層高めていく。秩父おろしの底冷えのする中、大地に響く屋台ばやしの音は底知れぬ魅力があって、見る人をいつまでも飽かせない。